



# 学校だより

令和8(2026)年3月発行

## ☆ 進路指導部より ☆ 「総合型・学校推薦型入試について」

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者等の皆様には、本校の進路活動に深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、今年度の進路状況についてお話ししたいと思います。全国的に注目されるのが総合型・学校推薦型選抜です。日本全国における入学者選抜実施状況では、国公立大学の21%が、私立大学の60%が総合型・学校推薦型選抜で入学しています。国公立のトータルでは46.3%の入学生が該当します。これは年々増加傾向にあり、本校でも軽視できない状況にあります。今年度の本校の総合型・学校推薦型選抜の合格者数は48名(2月8日現在)で、昨年度の2.5倍、卒業生の20.3%に該当します。総合型・学校推薦型選抜を実施する大学が急速に増えていること、本校が探究力、創造力、国際的コミュニケーション力を身に付けた生徒の育成に力を入れていることが増加の要因です。この傾向は全国的にも広がりを見せ、来年度以降も続くことでしょう。

次に総合型・学校推薦型選抜のメリット・デメリットについてお話しします。まずはメリットですが、共通テストを受ける必要がなく(一部除く)、10月から11月にかけて試験が実施され、12月には合否が判明します。試験内容も面接、小論文、プレゼンテーションなどで、普通教科の試験はほとんどありません。逆にデメリットですが、面接や小論文の準備で3ヶ月位を要し、その間、一般受験の準備ができなくなります。不合格になった場合、かなりのリスクを背負うことになるでしょう。まずは一般受験でも合格できる学力を身に付けることが第一優先です。

本校の進路指導理念は「志を高く持ち、易きに流れない」です。大学側が求める「高い基礎学力があり、強い学習意欲」を持った学生として、リーダーシップを発揮してほしいと思います。

---

## ☆ 教務部より ☆

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者等の皆様におかれましては、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。高校卒業はこれからの人生の出発点、「ホップ」の段階です。このあとしっかり「ステップ」、「ジャンプ」の段階を踏んで、大きく羽ばたいてほしいと願っています。

さて、本校の「普通科」・「理数科」は今回の卒業生で最後となり、来年度からは全学年が「文理探究科」・「理数探究科」となり、かつ全学年が5クラスとなります。SSH指定校としての取り組みに加え、3年前に始まった普通科・文理探究科における学校設定科目「KQ」と「総合的な探究の時間」を組み合わせ、探究活動の実践および教育方法の開発についても、一通り制度設計ができたところではありますが、間口減に伴う教員数の減少もあり、より効率的、効果的な教育方法への改善に努めていきたいと考えております。

BYOD・BYADによる一人一台端末が当たり前になり、教育へのAI（特に生成AI）の活用も、教科・科目による差はあるものの、普通に行われるようになってきています。その一方で学力の低下をはじめデジタル教育の弊害が世界各地で多く指摘されているのも事実です。AIについても宿題やレポートの自動作成といった不適切な使い方のほか、AIの多用によって自分で考える能力が低下している等の弊害が指摘されています。メディア論で知られる社会学者マクルーハンは、メディア（技術）の発展を「人間の身体能力の拡大」であると述べました。コンピュータの登場は「計算する能力」の拡大止まりでしたが、生成AIは「考える能力」そのものの拡大だといえるかもしれません。だとすると、これから人間は「何を」考える必要があるのでしょうか。AIを有効な「道具」として使いこなせる能力を育てる、というのは簡単ですが、そのために学校や教員に求められているものは深い部分でとても大きく、難しいものだと感じております。今後とも本校の教育へのご協力をお願いします。

---

## ☆ 生徒指導部より ☆

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者等の皆様方におかれましては、日頃より、本校の教育活動に多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。この度は、お子様が晴れの日を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

三年生の皆さんは、四月からそれぞれの場所での新生活が幕を開けます。一、二年生の皆さんも、新たな学年としての一年間が始まります。どんなことにでも挑戦して、自分の可能性を広げていってほしいと思います。何事も、「自分にはできない」と決めつけるのではなく、「どうやったらできるようになるか」を考え続けることで、自分の人生は開けていきます。すべては、「自分の可能性を信じる」ということから始まっていくと思います。人生では、様々な人に出会いますが、自分の

人生を最後まで自分と歩むのは、自分ひとりしかいません。出会う人や起きる出来事はコントロールできないことが多くても、「自分の心の在り方」は自分次第でいくらかでもコントロールできます。何が起きても常に心のベクトルを前向きに、自分はできると信じて、現状を打開する方法を考えながら行動を起こし続けることが大切だと思います。

変化の激しい時代ですが、人の本質というものは、時代が変わっても大きく変わるものではないのではないかと思います。自分を信じて精一杯努力し続ける姿は、多くの人々の心を引きつけます。自分の夢に向かって本気で走り続ける人の周りには、価値観を共有できる仲間が必ず現れます。そんな良き仲間達とともに、たくさんの夢に挑戦し、ひとつずつ叶えていく人生を楽しんでほしいと思います。

最後になりましたが、保護者等の皆様、関係者の皆様方、新年度も引き続きご理解、ご協力くださいますようお願い申し上げます。